

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	その人らしさを尊重し、互いが寄り添い、落ち着ける場所になるようにする。	
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティングや日々の会話を通し理念の共有・実践に取り組んでいる。	
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族には事業所玄関に理念の掲示や運営推進会議や訪問時等折に触れ伝えている。地域住民との関わりはうまく果たせていない	地域の集まりや、イベント等に参加し理解に向けての取り組みを行なって行きたい
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	・開所時に介護相談会の実施 ・散歩時に挨拶等行う 隣人を行事に誘う	町内会に入れてもらい、広報誌の掲載などをおこなって行きたい
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域活動への参加は出来ていない	老人会の集まりに参加して行きたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>・地域の方を対象に介護相談会を実施した。</p> <p>・認知症の相談も随時受けている</p>		<p>介護技術講習会を開催する(移乗や更衣・入浴介助等)</p> <p>定期的に、高齢者向けの健康体操を公開・実施したい。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>サービス評価の意義や目的を職員に伝え、自己評価にあたっている</p>		<p>外部評価の結果を踏まえ改善計画に取り組んでいきたい。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>前回の内容、質疑等に対する取り組み経過、検討事項を報告し、サービス向上を図っている。</p>		<p>一人ひとりの課題を各スタッフがピックアップし、課題についての分析、及び、解決策の模索を、文面上で自由に意見交換出来るコミュニティーノートを作成していきたい。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>電話や事業所側が出向き、近況報告や相談を経て、共にサービスの質の向上に努めている。</p>		<p>市町村開催の講習会等に積極的に参加し、市町村の目指すサービスの方向性の把握・理解に努めたい。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>職員の理解への取り組みは行なえていない。</p>		<p>勉強会を実施し、理解浸透を図っていきたい。</p> <p>制度等についての情報を得る為の資料提供をしていきたい。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>ミーティング・職員間の連絡ノート等で情報の共有、理解に努めている。</p> <p>虐待に繋がる言動について、常に注意し合える環境作りに努めている。</p>		<p>現場における、虐待に繋がる言動について、共に考察し合えるコミュニティーノートを作成していきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を实践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>時間をとり、丁寧に説明している。金銭、起こりうるリスク、医療連携体制、退居を含めた、事業所の対応可能な範囲について説明を行なっている。</p>		<p>ターミナルに至るまでのリスクと、職員の姿勢をご家族に理解して頂ける説明が出来るよう、独自の説明事項要項を作成したい。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の言動から、思いを察する努力をし、その時々を利用者の不安、意見等、対応方法等を職員に申し送り、対応が出来るよう配慮している。</p>		<p>利用者の言動について、個々の課題対象として書きとめ、それについての対応策を意見交換出来る、コミュニティーノートを作成していきたい。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月、個別の近況報告書・お小遣い管理表・領収書等の郵送を行なっている。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>訪問時の問いかけや運営推進会議を活用している。出された意見は、ミーティング等で話し合い、反映させている</p>		<p>センター独自の意見箱を設置し、ご家族が気兼ねなく意見を述べる事が出来る環境作りを実践したい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月一回のミーティングや、日頃からコミュニケーションを図れるよう心がけ、問いかけたり、聞き出したりしている。職員一人ひとりとコミュニケーションを図り、常に職員が抱える問題の把握に努めている。</p>		<p>業務内容における問題意識を課題として提示し、それについて職員全員が自由にコメントする事によって、解決策・業務内容の改良に繋げていけるコミュニティーノートを作成していきたい。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>調整不足である。</p>		<p>余裕のある人員の確保、柔軟な対応が出来るよう整えていきたい。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>基本的に各ユニットの職員を固定し、馴染みの職員がケアできるよう心がけている。新しい職員が入った際も紹介をし、利用者に教えてもらいながらコミュニケーションを図れるよう配慮している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内外の研修等に参加できる機会をもうけ、参加者は、他職員への研修報告を行なっている。</p>	<p>段階を踏んで、皆が受けることの出来るように考慮する。各法人が主催する研修の情報収集を積極的に行なう。独自に受講した研修資料をまとめ、提供していく。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同グループの勉強会・意見交換の場への参加を促している</p>	<p>他GHの見学や、交流等を図っていきたい。独自のネットワークによって得た情報を共有出来る、コミュニティノートを作成していきたい。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>率先して明るい環境を作れるよう配慮している。職員同士の人間関係の把握に努めている。悩みがある際には、すぐに相談出来る雰囲気を作っている。業務分担の平等性を図り、負担の偏りの軽減に努めている。</p>	<p>職員一人ひとりが、悩みを抱え込まない環境づくりを行なっていきたい。業務上遂行しづらい点等を自由に書きとめ、意見交換後、業務改善に繋がられる、コミュニティノートを作成していきたい。</p>
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員との個人面談や、コミュニケーションを通し、個人の悩み・課題の把握に努めている。個々人との対話に努めている。</p>	<p>悩みの解決方法の助言等、より強化していきたい。「有難う」等、感謝の言葉を掛け合える環境作りを目指したい。</p>
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>・本人に直接お会いして、まずはいろいろとお話をしてもらえような場を提供する。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>・不意の訪問にも、相談室等でしっかりと話を聞く時間を設け、アドバイスをしながら、まずは、安心していただいている。 ・訪問時には、不安を与えないよう留意しながら、近況と課題を報告する中で、ご家族の求めているものを引き出していけるよう努めている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・本人や御家族の思いを受け止めた上で、ケアマネジャー等と連携を図りながら、適切なサービスを選択している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族に事業所に見学に来ていただいたり、自宅や入院先に向かい、コミュニケーションをはかる。すぐに利用となった場合は、家族などに来た頂き、安心できるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	コミュニケーションを通し、本人の思いを理解することに努め、分かち合い共に支えあえる関係作りに留意している。利用者に教えてもらう場面を持てるよう配慮している		1対1の買い物・散歩などを通じて、親近感を持って頂きながら、より深い対話ができるように努めていきたい。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族の思いに寄り添いながら、気づきや日々の状況を共有することで、利用者本人と一緒に支えて行きたい思いで支援していることを伝えている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご本人、家族の思いや状況を見極めながら、外出や外泊の提案を行ったり、行事は必ず声をかけるようにし、より良い関係の構築に努めている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの知人、友人が気軽に尋ねて来れるよう雰囲気作りに配慮している。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	人間関係を把握し、職員が介入し、談話したり、皆で楽しく過ごす時間、仲の良い者同士で過ごす時間等、場面作りを行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退院の見込み無く契約終了となったが、見舞いや、家族の精神的な疲労に考慮し、定期的に連絡をとっている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中での声掛け・表情などから気持ちを察したりとそれとなく確認し、検討にあたっている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の生活の中で、昔の生活についての話題提供を通し、把握に努めている。又、入居時にご家族への聞き取りや疑問が生じた際には面会時等にどのような生活をされていたのか聞いたり、アドバイスをもらったりしている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	出来ること、新たな気づきを大切に、本人の全体像把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人、家族とは日々のコミュニケーションを通し、思いや意見を聞き、反映させるようにしている。カンファレンスを行い、介護計画を作成している。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアマネージャーや職員が情報を確認し、本人や家族の要望を取り入れつつ期間が終了する前に見直し、又状態が変化した際には、検討をおこなっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気づきや入居者の状態変化・言動等は、個別記録、日誌に記入し、情報の共有を図っている。 また個別記録、介護支援計画書を独自に作成しそれを基に介護計画の見直し、評価を行なっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	24時間健康管理、医療活用の強化を図っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員の運営推進会議により、情報・意見交換の機会が設けられている。 近所の小学校に出向き、情報の提供を行なった		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	デイケア利用希望の方の意向に沿って、他サービス事業者との相談、連携を行なっている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議での包括支援センターの参加を依頼しているが、未参加のため、関係強化は図れていないが、議事録を作成し、提出している。		情報交換、協力関係を築いていけるようアプローチしていく。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族承諾の元でかかりつけ医との関係を築いている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力病院は内科専門であり、神経内科・脳下科に関しては、紹介状の元、受診にて対応している。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	往診のDr.に直接相談しているため、看護職との連携は取れていない		より簡易に連絡の取れる、看護職との連携を図って生きたい。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には本人への支援方法に関する情報を医療機関に提出し、家族との情報交換や頻繁に職員が見舞うようにしている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	取り組んで行きたい		本人や家族の意向を踏まえ主治医・職員が連携をとり安心・納得の得られる最期を迎えられるよう取り組んでいきたい。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	取り組んで行きたい		本人や家族の意向を踏まえ主治医・職員が連携をとり安心・納得の得られる最期を迎えられるよう取り組んでいきたい。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他の事業所に移られた場合、アセスメント・支援状況等を細かく記載し手渡すとともに、情報交換を行い、ダメージを防げるよう努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>ミーティング等を利用し、職員の意識向上に努めている。利用者のプライドや自尊心を傷つけない対応の統一を図っている。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>利用者お一人の希望に他の方が合わせているのが現状である。(それに対しての拒否は見受けられない)</p>	<p>1人ひとりの希望を聞き、個別に自己決定が出来るように、支援していきたい。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>基本的な一日の流れはあるが、1人ひとりの状態や思いに配慮しながら支援している。</p>	<p>日々の1人ひとりの状態や思いに配慮しながら柔軟に支援していきたい。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>着替えは基本的に本人の意向で決めており、自己決定がしにくい方へは職員と一緒に考えて支援している。理美容は、訪問にて実施しており、個々のなじみの店等の利用は出来ていない。</p>	<p>1人ひとりのニーズを捉えた支援をしていきたい。</p>
54	<p>食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>調理・盛り付け・片付けは利用者で行う。職員も一緒に同じものをテーブルを囲んで楽しく食事できるよう雰囲気作りを大切にしている。</p>	<p>今後も維持出来る様に、支援していきたい。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>なかなか取り組めていない。</p>	<p>ニーズに合わせた取り組みを出来るよう支援していきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行うことでトイレでの排泄を促している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	取り組めていない。		個別に応じた入浴の提供が取り組んで行けるよう話し合い等行っていきたい。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。また、一人ひとりの体調等に配慮しゆっくり休息がとれるよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの得意分野で個人が力を発揮出来るよう、個別に仕事を依頼する。仕事が終わった後は、必ず感謝の言葉を伝えている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時や、薬の支払い等出来る限り自身で行っていただけよう支援している		外出時に、個別にお金を渡し、支払いをして頂けるよう、支援してきたい。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気、本人の気分や希望に応じて心身の活性につながるよう、日常的に散歩は行っているが、その他の実施は出来ない		個別に応じた意見の収集を通し、外出の機会を設けていきたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	コミュニケーションを取りながら本人の行きたいところ等についてアセスメントを行っているが、実施できていない。		個別に応じた意見の収集を通し、外出の機会を設けていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状・暑中見舞いを出す為の支援を行い、利用者の希望に応じて日常的に電話や手紙が出せるように支援している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気軽に来やすい雰囲気作りを心がけている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を実施し、職員の共有意識・認識を図っている。		身体拘束のない現状を、維持していきたい。 身体拘束について情報交換が出来るよう、コミュニティーノートを作成していきたい。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵がかかっている現状がある。		リスクを考慮し、開放していく為の検討をしていきたい。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	事務作業等も同じ生活空間で行いながら、さり気なく全員の状況を把握するよう努めている。夜間は2時間毎に様子を確認したり、起きてきた際に対応できるよう全居室の中心で業務にあたっている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	全てを取り除くことはせず、利用者の状態に応じて、対応を行っている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットの共有・事故が発生した際には、必ず事故報告書を作成し対策について検討し、家族への報告を行っている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	簡易的マニュアルはあるも、個別に応じた対応や、応急処置方法についての取り組みは行っていない。		勉強会を実施していきたい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火管理者はいるものの、実施できていない現状がある		防火計画の作成、避難訓練の実施、地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	一人ひとりに対する危険リスクの把握に努めている		危険リスクを考慮し、抑圧感の無い暮らしをしていく為、ミーティング等で話し合っていきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日2回のバイタル測定・記録。日々の状態観察を通し、異常の早期発見に努めている。状況により往診・受診につなげている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方や用量が変更されたり、本人の状態変化が見られるときは、往診記録に細かく記載し、またいつもより細かい記録をとり職員間の意識をたかめている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	散歩や家事活動、体操・レクリエーションを通し、自然排便が出来るよう取り組んでいる。 担当医と連携を図り、便秘時に服薬コントロールの指示を仰いでいる。 マッサージ師との連携を図っている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後に利用者の状態に合わせて口腔ケア誘導・声掛け・介助を行っている。 義歯の方は、夕食後に預り、消毒を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分管理表・食事摂取量を記録し、変化に気づけるよう配慮している。管理栄養士の立てた献立を元に食事作りを行う。		自分達で献立を決めたり、個人の好物に応じた食事提供を行っていききたい。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作成している。手洗いうがいの徹底、ノロウイルス対策としてペーパータオル等の使用をしている。		マニュアル作成のみで、勉強会等行っていないため、行っていききたい。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板・利用者の歯磨き用コップ等は毎日漂白洗浄、食器類は乾燥機にて加熱消毒を行っている。食品は冷蔵庫をこまめに点検し鮮度の状態等の確認を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先に花壇を設置しているが、もう一工夫必要だと思う。		ベンチや手作り看板などを作成し、親近感のわく入り口にしていききたい。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の装飾や、ゆず湯や菖蒲湯、食べ物など、季節感を意識的に感じていただけるよう配慮している。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホールや、ベランダに椅子をおき、思い思いに過ごせるよう配慮している。 リビングにソファを置いたり、1人ひとりが好きな場所で過ごせるように支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時等、家族にお願いはしているも、なかなか馴染みの物がある生活環境は提供できていない(されている方もいます)		運営推進会議などを利用し、家族に働きかけていきたい。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	定期的に換気を行ったり、利用者に様子を聞きながら調節するようにしている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態に合わせて手すりやトイレ・廊下などの居住環境が適しているかを見直し安全確保と自立への配慮をしている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりの状況に合わせた声掛けや、役割をつくり自立にむけた支援を行っている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	畑・花壇をつくり、活用している。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き活きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

一つの事に対し、利用者全員が関わられるよう、支援している。